

一般的なリサイクルは、ある廃棄物を「別の何か」に再利用することを指します。しかし、TOMASEEが追求するのは、一歩進んだ「原点回帰」です。例えば、食べた野菜の残渣（残りカス）や汚泥（おでい）を肥料に変え、その肥料を使って再び同じ土地で野菜を育てる。この「野菜から野菜へ」という完全なループこそが、彼らの目指す真のリサイクルの形の一つです。

「元の形に戻す」
リサイクルの究極形

環境と技術の循環に加え、TOMASEEが何よりも大切にしているのが「人」と「地域」の循環です。例えば少年野球やバドミントン、サッカーといった地域のスポーツ支援に力を入れています。その背景には、「大好き苦小牧」という温かいスローガンがあります。苦小牧の若者の多くは、一度は街を離れるかもしれませんが、多感な時期に地域の人々に支えられ、スポーツに打ち込んだ記憶があれば、いつか人生の選択を迫られた時、「また苦小牧に帰ってきたい」と思ってもいいかもしれません。

「人の循環」
苦小牧への愛

この「一度外へ出た人材が、力を蓄えて戻ってくる」という流れもまた、彼らが描く循環の一部です。地域で人を育て、その人がまた地域を豊かにする。この循環こそが、企業の持続可能性を支える真の基盤となっています。



明治期から受け継がれるリサイクルマインド

北海道苦小牧市。この地でSDGsが世界的にさげはれる約1世紀前から、これにつながるマインドを持って事業を行ってきたのがTOMASEEホールディングス株式会社（以下、TOMASEE）です。創業は明治38年（1905年）。未開であった北の大地に入植し、農業から始まったこの企業の歩みは、まさに北海道開拓の歴史とも重なります。

始まりは「生きるための知恵」

現在でこそ環境に優しい産業廃棄物処理やリサイクルプラントなど、SDGs時代に即した事業展開をしているTOMASEEですが、その根底にあるのは「古くから伝わる生きるための知恵」でした。

創業期は事業として農作物を育てるために堆肥などを馬車を引いて畑に撒いていました。それは、江戸時代から続くリサイクル思想の延長線上にあり、生



ジェイスパートナース
アクション

苦小牧から世界に発信！
「循環」が創る未来の可能性
TOMASEEホールディングス株式会社

TOMASEEグループの苦小牧音楽フェス「エコフェス」の音響機器は太陽光パネル×蓄電池で稼働する。



環境と技術の循環に加え、TOMASEEが何よりも大切にしているのが「人」と「地域」の循環です。例えば少年野球やバドミントン、サッカーといった地域のスポーツ支援に力を入れています。その背景には、「大好き苦小牧」という温かいスローガンがあります。苦小牧の若者の多くは、一度は街を離れるかもしれませんが、多感な時期に地域の人々に支えられ、スポーツに打ち込んだ記憶があれば、いつか人生の選択を迫られた時、「また苦小牧に帰ってきたい」と思ってもいいかもしれません。

2015年、SDGsが国際社会の共通目標として国連サミットで定められました。その10年以上前から、法人化して60年以上前から、TOMASEEが当たり前のように続けてきた事業そのものが、SDGsが目指す姿でした。現在、TOMASEEはSDGs 17項目の目標のうち、16項目についてコミットしています。

これは特定の目標を狙って活動した結果ではなく、地域の困りごとに誠実に向き合い、技術を磨き続けてきた必然の結果です。TOMASEEグループ代表の渡辺秀敏さんは「地域でSDGsを一番推進している企業はどこかと言われた時に、TOMASEEグループだと言っていただけのようにしたい」と話します。その決意は、流行としての環境意識ではなく、自らの歴史に対する誇りと、未来への責任感に基づいているのです。

2015年、SDGsが国際社会の共通目標として国連サミットで定められました。その10年以上前から、法人化して60年以上前から、TOMASEEが当たり前のように続けてきた事業そのものが、SDGsが目指す姿でした。現在、TOMASEEはSDGs 17項目の目標のうち、16項目についてコミットしています。

自社の誇りをSDGsで表現

2015年、SDGsが国際社会の共通目標として国連サミットで定められました。その10年以上前から、法人化して60年以上前から、TOMASEEが当たり前のように続けてきた事業そのものが、SDGsが目指す姿でした。現在、TOMASEEはSDGs 17項目の目標のうち、16項目についてコミットしています。



災害時にできる災害廃棄物の「仮置き場訓練」の様子

ジェイスパートナースメッセージ

Message



◆TOMASEEの技術で「自給自足の村」を創りたい
私たちの目標は「自給自足の村」を創ることです。インフラが整わず、電力や水も不足している世界の貧困地域でTOMASEEの汚泥処理・水浄化プラントを活用するのです。そうすれば人々が排出したゴミやし尿が農業を支える肥料と、夜を照らす電気に変わります。そして、これまで病気の原因となっていた汚れた水が、安全な飲み水や農業用水へと生まれ変わります。私たちが長年培ってきたSDGsマインドで世界中の人々をもっと笑顔に。これからも、皆さまのお力添えの元、歩んでいきたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。

TOMASEEホールディングス株式会社について Company

- 住所：〒053-0053 北海道苦小牧市柳町 2-2-8
- 創業：1953年
- グループ企業：(株)とませい…廃棄物収集・運搬・清掃・維持管理、汚泥処理、リサイクル製品の製造 他
(株)トマウエーブ…廃棄物収集・運搬、肥料製造・販売、バイオガス発電、廃タイヤ再生処理 他
(株)Smile-loop…循環型農業による農作物の生産・販売 他
(株)アース・クラフト…環境対策材料の研究開発・製造・販売・毒物劇物一般販売 他
大坪建設(株)…公共施設から個人住宅まで幅広い設計・施工 他
(株)ステイヴィレッジ…長期滞在・合宿特化型ホテル



InstagramをメインにSNSでSDGsについても日々啓もうしている。

<https://tomasei-hd.net/>

<参考>TOMASEEの子ども応援活動一例



ピッチングマシンの寄付 野球・バドミントン大会開催 ゴみの分別授業 キャベツの収穫体験